



文学部長
都筑 学
Manabu Tsuzuki

生きることを学ぶ 大学生活を！

みなさん、入学おめでとうございます。みなさんは、新しく始まった大学生活をどのように過ごそうとしているのでしょうか。いろいろな計画を胸に抱いていることと思います。

一日は24時間、1年は365日です。4年間の大学生活を数え上げてみると、およそ3万数千時間になります。この時間をどのように使っていくかは、みなさんの考え方一つです。

大学生活における主要な活動は、学業です。文学部の13専攻の中から自分で選んだ専門分野について、大いに学んでもらいたいものです。学業以外にも、大学生活にはサークル、部活動、ボランティア、アルバイトなど、さまざまな活動があります。いろいろなことにチャレンジして、そこで多くのことを体験し、充実した大学生活を過ごしてもらいたいと願っています。

大学生とは、この世の中ではどのような存在なのでしょう。学生とは、「生きることを学ぶ」ということを意味しています。人生90年時代と言われる今日、大学生活はこれから先の生き方を定め、人生の土台を作る重要な時期です。人生の主体はみなさん一人ひとりですが、みなさんの人生は多くの人々に支えられながら進んでいくものです。その点において、大学生活のさまざまな活動を通じて、多様な人間関係を取り結ぶことも大切な意味を持っています。文学部の教員や文学部事務室の職員も、その人間関係の輪の中にいます。さあ、一緒に楽しく大学生活を送っていきましょう。



総合政策学部長
松野 良一
Ryoichi Matsuno

教養と語学力を持って、 現場に行こう！

総合政策学部の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんはこれから、いろんな人に、「総合政策学部って何するところ？」と何十回も聞かれることになるでしょう。私は100回以上、聞かれました。

簡単に説明すると、こうです。いろんな分野の学問を、幅広く学びます。「教養」を身につけると考えてください。「語学」は、英語を入れて10語種あります。アジアの言語が充実しています。しかし、語学はツールでしかありません。それを使って何をやるかが問題です。

教養を身に付け、語学力を鍛え、それで何をするのでしょ
うか？

総合政策学部とは、世界に、日本に、あなたの住む町に
がっている問題を発見し、グループワークで知恵とアイデア
を出し合い、解決策を立案し、実行するというトレーニングを
する場所です。

先輩たちが取り組んだ事例を紹介します。

まず、国際系です。①カンボジアの孤児院の孤児は雇わ
れた子どもだった②フィリピンのゴミ問題と新しいソーシャルビ
ジネス③タイのヒット映画「メナムの残照」に描かれた日本人
兵士の真相④カザフスタンの新エネルギー政策と現状⑤カン
ボジアにおける地雷被害者への支援と課題、などです。

政策系では、①駅前シャッター商店街の再生②医薬品の
ネット販売は全面解禁すべきか③非正規雇用から正規雇用
への政策④地下街の老朽化と地下街の存在意義⑤商店
街活性化とミステリーツアーなどです。

このように、大前提として、社会問題や現象、謎などがあ
り、その解決や解明のために、グループでアイデアを出し合
い、学生が自主的に取り組むのが総合政策の特色です。

このため、総合政策学部では、「現場」を重視します。学
問分野を幅広く学び、フィールドに行き関係者から話を聞き、
調査を行って、問題解決や解明を図ります。そういうトレー
ニングを繰り返すことによって、学生たちの総合的な能力を開
発し、自信につなげていくことを目標にしています。

さあ、みなさん。教養と語学力を持って、現場に行きましょう！